



告げ知らせること

「天使は、彼女のところに来て言った。
おめでとう、恵まれた方、主が、あなたと共におられる。」
(ルカ 1 : 28-33)

私たちは、み言葉を生きていなければ、伝えることは、出来ません。告げ知らせるということは、心の中心にみ言葉があるという豊かな実りの結果なのです。イエスの後に従って歩むという望みなしに、イエスの後について行くようにと、誰も、招くことは、出来ません。

私たちの派遣は、復活の主との出会いという根本的な出会いから生まれます。ただ、この神体験だけが、私たちを、信仰の証人にするのです。マグダラのマリアのように、私たちが、見たこと、聞いたことを述べ伝えるのです。命が、死に打ち勝つことを、宣べ伝えるよう促されているのです。(第23回 総会)

告げ知らせることは、私たちに、心からの回心を求めます……ただ、神の国を求めるだけで十分なのです……そこに私たちの宝が、あります。(ルカ 12 : 30-38) 「わたしの恵みは、あなたに十分である。」という言葉に信頼し、告げ知らせましょう。(2コリ 12 : 9)

「ただひたすら神と神の国を求め、謙遜で、主に信頼を置く信仰、そして小さな人々と共に、自らも小さくなり……」
(会則 11)

なぜなら、私たちは、どうでもよい宣教をしているのではないのです。キリストに従うこと、聖霊による呼びかけが、私たちに「キリストの真の弟子を育成する。」(会則 9) という、責任をとらせるのです。

「働きは、素晴らしいものです。なぜなら、私たちが準備しようとしているのは、主への神殿ではなく、神の子どもたちの育成だからです。」 (P0 会の精神)

「働きは、素晴らしいものです。なぜなら、私たちが準備しようとしているのは、主への神殿ではなく、神の子どもたちの育成だからです。」 (P0 会の精神)

「聖書に、救いの使命を持って登場する天使のように、私たちもまた、神のみ旨を敏速に果たし、常に奉仕の姿勢を持ち、神のみ国を告げるために、備えていなければならない。」
(会則 10)

天使たちは、たやすく神がおられる場を示すことができます。旧約聖書では、この場は、契約の櫃として象徴的に表わされています。ヨハネ福音書では、イエスがおられた場所を示しています。イエスは、復活し、新しい神殿、新しい契約の櫃となりました。主は、時間や場所を超越し、どこにでもおられるのです。(第23回総会)

世界の新たな現実、新たな貧困に基づいて、貧しい人々の選択を刷新してください。生命の擁護、正義、平和の促進、人権擁護、神の被造物全体の保護の責任をとるのです。(第22回総会)

創立以来、姉妹たちは福音宣教、人々への献身的な奉仕にその生涯を賭けたことを示してくれました。主を全面的に信頼しコレラ患者の世話さえしたのです。
(「守護の天使の姉妹たち」第1巻)

「主は、私たちが、どれだけ成功したかによって報いてくださるわけではありません。つまり、私が言いたいのは、どれだけ回心したかではなく、どれだけ働いたかです。主は、しなくてもよい忍耐を耐え忍ぶことを望まれません。」 (P0 1853年)

今日、人権擁護の責任をとるということは、私たちが、福音を宣べ伝えることと本質的につながっています。(第22回総会)





喜び

「主よ、わたしたちのために 大きな業を成し遂げてください。
わたしたちは喜び祝うでしょう。」 (詩編126)

「心を探り、単純さを愛してください。そのために私は、単純な心で、喜びをもって、あなたにすべてを与えたのです。」

(P0 会の精神)

生命の神、み国の神、イエスの神を信じる私たちは、臆病に悲しみながら、意気消沈しながら悲観しながら、人生を歩んではなりません。なぜなら、私たちは、美しい真珠、宝、喜びの理由を見つけたからです。

ある時期だけ感情をかき立てられ、一時的に喜ぶというのではなく、アイデンティティーの特徴として、私たちは、自分たちを喜びの人として認め、また、それを体験するのです。

歓喜、つまり喜びは、無償で得る善のとても大きな恵みの結果です。それは、慈しみ深い父一母である神に、私たちが愛されているということです。このような無償の恩恵に対し、悲しみが入り込む余地があるでしょうか？

聖パウロが言っているように、喜びは聖霊の実りです。(ガラ 5:22) これこそが、イエスを愛する心から出た真の喜びです。私たちがついて行く決心をしたイエスは、私たちが、彼と共にいて神の国のよい便りを、特に、貧しい人々に告げるために、私たちを呼ばれました。

軽薄さや表面的なものの中にある喜びについて述べているのでは、ありません。愛し、愛されていると感じられる喜びのことです。使命やカリスマが、自分たちの本質であると感じる喜びです。それは、教会や私たちの使徒職のプロジェクトを分かち合う人にとって善となります。イエスに愛されている人、傷つきやすい人、疎外されている人、貧しい人にとっての善なのです。

「落胆しないでください……神は、私たちが、苦しみの時も、喜びの時も、常に忠実であれば、決して見放さないことを、確信してください。」 (MSP 1860年)

私たちは、人間ですので、特別な状況により、ある時期、悲

しみが生まれることもあります。しかし、たとえ、そのような状況にいても、常に主が共にいてくださることを知り、生活を共にする人々との連帯と愛のうちに、神への信頼から生まれる静けさと喜びを感じさせてくれます。

大きな混乱と不安の中で、天使は、マリアを喜びに招きました。「喜びなさい。主が、あなたと共におられる……」(ルカ 1:28) 主が、私たちと共に歩まれることを知り、主におけるその信仰に深く生きることは、たとえ困難な時であっても、私たちを、喜びと平和で満たしてくれるのです。

「勇気という鎧を身にまとうてください……神のみ手から与えられる、すべてのことを、喜びの心で受け取ってください。」 (MSP 1853年)

キリスト者の喜びは、逆説的に表わされることもあります。「キリストの苦しみにあずかればあずかるほど喜びなさい。それは、キリストの栄光が現れる時にも、喜びに満ち溢れるためです。」(1ペト 4:13)

私たちの両創立者は、この言葉通りに生き、姉妹たちに伝えました。喜びは、感謝の心から出る実りです。感謝すること、賜物を認識し贈り物として受け取るというやり方です。すなわち「私は、神を賛美し、心の底から感謝します。」(MSP 1859)

ですから、次のことが、喜びの主題と言えます。

- たとえ人生において、逆境の時でさえも、歓喜、喜びを感じられること。なぜなら、私たちの人生は、復活されたイエス・キリストへの信仰という固い岩の上に、土台が据えられているからです。
- 兄弟姉妹的友情を楽しむこと。兄弟、姉妹と一致しながら、人生を分かち合うことを楽しむこと。
- 心からの深い喜びを映し出している真の人間性を、徹底的に生きること。これは、私たちが神の子であり、神から、そして他者から愛されていると実感する結果です。

参考箇所：

- ・詩編 43 (42)
- ・ヨハ 16 : 21
- ・エレ 15 : 16
- ・1ペト 1 : 6 -7
- ・マタ 13 : 44
- ・使徒 2 : 46 - 47